



道徳授業の質的向上をめざす  
 研修を効果的で、豊かなものにする

麗澤大学客員教授 広中 忠昭

麗澤大学の広中教授は、全国各地で教職員を対象とした道徳教育についての研修会で講師を務めています。来たる六月と七月には、千葉県柏市の麗澤大学で「道徳授業指導力向上講座」を計画していたのですが、中止せざるを得なくなりました。そこで予定していた研修会について、その主眼などを伺いましたので、本誌上と研究所ホームページでお伝えしてまいります。

一・量的確保から質的確保へ  
**Q**…平成二十七年に「道徳」が特別の教科となり、すでに小学校では二年間、中学校でも一年間が経過しました。この間を振り返って、どのような変化を感じますか？  
**広中**…行政機関を中心に改訂の基本方針の理解や、それに基づいた授業改善と評価の在り方について研修する機会が計画的に

用意されてきました。その結果、とりわけ道徳の授業時間の量的確保については、大きく改善されたといえるでしょう。また、当初は先生方が一番心配していた評価についても、個々の児童・生徒の成長の様子を見取り励ます記述による評価という考え方が、理解されてきていると思います。一方、授業を進める上で、学校によって課題があるという声も耳にいたします。

**Q**…授業を進める上での課題とは、学校全体でしょうか、あるいは教員個別の問題でしょうか？  
**広中**…研究校等では、校長先生のリーダーシップのもとで積極的に研修会など行われているでしょう。ただ全体としては、教科書と指導書を頼りにした授業展開に留まっている学校が多いことも感じています。実際に先生方からは、次のような声を多く聞きました。

・授業のイメージがつかめない教材がある。  
 ・教科書に載っている発問でしか授業ができない。  
 ・教科書教材以外も使いたい。

**Q**…つまり使用する教材、教科書についての悩みですね。

**広中**…そうですね。そして指導法の問題も少なくありません。  
 ・自分の授業は道徳的価値を押し付けているのではないか。  
 ・一時間の授業でねらいに迫ることが難しい。

こうした質問からは、先生方の道徳科への真剣な態度。児童・生徒に対する誠実さや意欲を感じるのでありますが、いずれも簡単に回答できるものではありません。これまでは、文部科学省も各都道府県の教育委員会も、教科書を順調に軌道に乗せるために教科書を用いた量的確保を優先してきたと思います。しかし、今後は別の課題が現われてきたと言えるでしょう。

**Q**…教科書化されて定着してきた一方、時間の経過とともに新しい課題が生まれてきたのですね。

**広中**…はい、ここからは授業の

質的向上に取り組んでいかなければなりません。道徳科は新しい学習指導要領が求める資質・能力の3つの柱の一つである「学びに向かう力・人間性等」に深くかかわるものであり、児童・生徒の人格の基盤となる道徳性を養う重要な役割を持っているからです。

また、教科化の際に指摘された「形式的な指導を排し、質の高い指導法の工夫を図ること」が求められているからでもあります。

二・学ぶ機会をどうするか

**Q**…そうした背景で、広中先生の研修会では、質的向上に向けてのテーマが設定されているのですね。

**広中**…質的向上に資する指導法については、研究校でもなければ、なかなか学ぶ機会がないのが現状です。日々の多忙さゆえに、自ら研究会等に参加することも簡単ではありません。しかし、そうした時間のない中でも、授業改善や教師力の向上を求めている先生方も多くいらっしゃいます。ですからこれまで、全

国の会場で教師力の向上や教科等の指導力の向上を図る研修の機会には、私も積極的に関わらせていただけてきました。

**Q**・私どもが主催する会は、文部科学省や教育委員会の後援を受けていて、先生方の期待も大きいです。

**広中**・子どもたちの成長と幸せを願い、先生方は真摯に道德教育の向上を目指しています。その気持ち在地元の方々に伝わり、事前に各学校